



会員数 20人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 215

令和6年5月号

2024. 5. 21

4月卓話

国際協力機構 JICA(ジャイカ)の業務概要と最近の取り組み

JICA 九州 地域連携アドバイザー 小林 秀弥氏



東京都出身で来年は還暦です。大学を出て都市銀行に就職していましたが、2000年にJICAへ転職。銀行に10年、JICAに25年となります。その間海外は3回、スリランカ、アフガニスタン、バルカン事務所(旧ユーゴ・ベオグラード)と約10年弱勤務。19年10月から四国センター所長に、その後本部に戻り1年程ウクライナの支援に関わりましたが、令和5年12月、希望が叶って九州センター(八幡東区)

へやって参りましたと自己紹介された。

始まりはJICA事業の紹介です。主にODA(政府開発援助金)使って、開発途上国に援助を行っていますが、①技術協力(専門家の派遣等)、②無償資金援助(病院・学校等の供与)、③有償資金援助(火力発電所・高速道路等の整備)の三つ扱っている組織で、1000人くらいの職員が働いているそうです。また、戦前、戦後は海外移住者を送出していた組織でもあり、現在の円借款を扱う二つの組織他、いくつかの団体が母体となっている組織でもあるそうです。JICAの事業は政府の方針や国際社会の枠組み、最近ではSDGsの流れや方式に基づいて実施し、「人間の安全保障と質の高い成長を目指す」ことを究極の組織目標としているそうです。国ではなく、「人間一人ひとりが貧困や生命の危険から守られる」という人間の安全保障は、JICAの理事長でもあり、国連の高等弁務官だった故緒方貞子さんの考えを基に国際的に広められたもので、日本外交方針の屋台骨です。加えて、多国間援助と2国間援助があり、多国間援助は政府が実施し、ユニセフやWHO、世界銀行などがあります。2国間援助は東南アジア諸国で行う唯一の機関がJICAで、かつて中南米に移住された日系社会への支援や災害援助も実施、最近ではトルコ地震へ物資の送付、医療・救助チームの派遣なども行い、予算規模は数千億円規模だとか。それに青年海外協力隊員も世界90か国に1200人くらい(コロナ前は2000人)派遣しているそうです。

そして、JICAの組織はアフリカ・アジア・中南米に100弱の拠点をもち、国内には12か所のセンターをおいていますが、35年目を迎える九州センターでは、地域に蓄積された技術、技能を東南アジア地域へ展開しているそうです。小林さんがこれまでの25年間で取り組み学んだことは、いずれの紛争地域でも保健、医療、教育などの援助を展開しても、アフガニスタンのようにタリバンが全てをひっくり返してしまうということ。ご存知の中村哲医師の例も挙げて話され、ご自分が体験した復興支援や災害支援の模様等を現状を詳細に話されました。

終わりは、聞いたかったウクライナ支援の話でした。昨年2月、4月、11月の3回に渡り、ウクライナ政府と日本からの資金・技術協力900億円の折衝を行い、地雷除去探知機・医療器材からパソコンまで、スピード感をもって交渉したこと。そして、キーウの美しい街並みや地下鉄も見せてくださり、「日本も大変なのになぜウクライナを援助するのか」という意見があるのは承知していますが、どうぞご理解を」と話を結ばれました。

紙面に収まらずカットした話もありますが、小林さんが健康に留意され日本のため、世界のために情熱と行動力を発揮して活動されることを願ってやみません。(内藤)

4 月 例 会 報 告

会員動向で、山下博会員の奥様が亡くなられたことが報告された。続いてお誕生会は京谷さん、大川さん、植田さんの3人が対象で、しばらく体調不良で休んでいた京谷会員は一枝夫人同伴で参加、本人挨拶のあと夫人も「二人で一步一步前に進んでいきたいと思います」と謝辞を述べた。

会長挨拶では「先月、つたない鳴き声しか聞こえなかったご近所のウグイスがしっかり『ホーホケキョ』とかつこよく鳴くようになりました」と春の知らせを。卓話は JICA 九州地域連携アドバイザーの小林秀弥氏が「独立行政法人国際協力機構(ジャイカ)の業務概要と最近の取り組み」とウクライナ支援についても話された。ショートスピーチは藤原会員が本物のワインを飲みたくてヨーロッパに行き、ワインを堪能した思い出を話した。(安高)

委 員 会 報 告

例会委員会

5 月 7 日 7 名出席

6 月は久し振りのコンサートです。出演するのはオーボエ、チェロ、ピアノのトリオ「ノイ シアーモ」です。クラシックから日本の歌、タンゴまで、多彩なプログラムにご期待を。7 月例会は 30 分間の会員卓話ですが、「同好会魅力報告」と銘打ってカラオケの会、ワインの会等に会の魅力を語っていただきますので、ご協力をよろしく。卓話は今後とも様々な形式を模索していきます、皆様からの提案もお願いいたします。なお、例会委員会の名称は毎月の例会と紛らわしいので、名称のみ企画委員会に変えるよう役員会に提案することも決まりました。(松本)

交流委員会

5 月 14 日 7 名出席

17 時 30 分～湖月堂にて開催。春の戸畑菖蒲観賞会について最終確認。年度明けの企画になる暑気払いについて話し合いましたが、吉田委員長が体調不良で欠席、来月の委員会で委員長にも良いアイデアを出してもらい楽しい暑気払いとなるよう考えていこうと云う事になった。

また、お誕生カードの件は従来通り 2 人のメッセージで早めに取り掛かることにします。委員長不在でチョット淋しい(静かな?)会でした。(柴村)

広報委員会

5 月 10 日 5 名出席

12 時 30 分～テトラホテル北九州で開催。貴重なメンバー 2 名が欠席していて少し寂しい。しかし、アツアツで美味しいランチを食べて元気に。会議初めに委員会を毎月第 1 金曜日から第 1 月曜日に 6 月から変更することを決め、つながり 6 月号の編集会議へと移りました。原稿や写真の担当者を確認。5 月号の校正は記事が豊富で紙面からあふれそう、久々に嬉しい悲鳴です。

しかし、内容はしっかりチェックしました。時間があつたので、会員増強や 25 周年事業のことなども話あってお開きとなりました。(内藤)



アルザスの白ワイン

No.78 藤原 智子

私は 20 数年前、ワインの本場であるフランス・アルザス地方へ旅しました。美味しいワインと料理を思い切り楽しんだ思い出をお話しますと始まりました。

アルザスは、フランスの北に位置する有名なブドウの産地で、フレッシュな酸味を生かした辛口の白ワインが多く造られています。アルザスワインの代表は王様と呼ばれる「リースリング」で、デリケートな香りとシャープな酸味が持ち味の白ワインです。リースリングはブドウの品種名で、アルザスではそのままワイン名になっています。このワインに合う料理は、白身魚でもあっさりした鱸のグリエや鶏を蒸したもの。また、アルザスはミシュランの星付きレストランがひしめくところで、フランス料理とアルザスワインの組み合わせは、まさにベストカップル。前菜にフォグラのテリーヌを注文したら「ピノ・グリ」がお勧め。香りの強いマンステールチーズを注文すれば、ライチやバラの香りが華やかな「ゲベルツラミネール」です。この3種類に「ミュスカ」を加えた4つがアルザスワインの巨頭で、美味しいわりに値段もお手ごろで、みなさんにもお勧めですと話されました。

ビールと焼酎しか知らない私には、少々難しかったのですが、異次元の世界を知る良い機会でした。(眞鍋)



4月の同好会

歴史文学講座

今年度初の講座を4月23日、松本清張記念館で開催。講師は北九州市の文化財を守る会会長で史学博士の廣崎篤夫先生が初登場、ゲスト3名を含め9名で「戦国争乱・毛利元就の北九州侵攻」がテーマです。戦国時代の北九州は、山口の毛利氏、大分の大友氏、筑前の麻生一族それに黒田藩、豊臣秀吉といった有力戦国大名に囲まれていました。第1回目は毛利氏による“西の川中島”といわれる門司城合戦、大友氏による長野成敗等、北九州の中小大名の興亡の話をとても分かりやすく解説していただきました。配られた資料も詳しく貴重なものでした。



今回は6月25日、テーマは「筑前の名族・麻生一族興亡史」。皆さん、勉強に参加しませんか。(松本)

ワインを楽しむ会

4月21日18時から「ブラスリー・リップ」で141回を開催。出席者9名。解説者の山下会員が欠席のため、リップの入江マスターにワインの調達、解説をお願いした。また、長年続けた料理とワインの種類も検討。料理は①リップのオードブル盛り合わせ、②ローストポーク、③デザート、コーヒー。次いで、ワインはまずイタリア、トスカーナ地方の2022年ものやや辛口の白ワインで始まり、2003年が初のビンテージの今までフランス、ボルドーにはない新しいスタイルの2019年ものフルボディ赤ワインで締め括った。前回の会から会員同士の楽しい会話が弾んだが、今回も今までにない談笑の時間を全員が過ごすことが出来た。(古賀)

食 美 会

五月晴れの爽やかな5月9日10名全員が参加しました。今回の食事処はコレットのすぐ前、「食楽厨房あんばい」と言う落ち着いた雰囲気の日本料理店でした。

季節の食材を使った和の前菜から始まり、3点盛りの新鮮なお刺身。メイン料理の牛ヒレ肉、鯛料理には夫々旬の野菜が添えられておろしソース、中華もやさしい和風味、サラダ、など全ての創作料理が美しく美しく皆さん大満足でした。店員さんの接待も感じがよく、また是非機会を作り訪れたい店でした。(橋本)

歌をうたう会

前日の好天気とは引き換えに、朝から薄曇りでやや肌寒く小雨が降り始めた4月26日15時30分から、西小倉市民センターでレッスンを行った。出席者5名。

まずは、全身の筋肉を緩め、声出し(早口言葉も)から始まり、今日は新しい曲はなく今まで練習した曲のおさらい。しかし、作曲者の心境や環境を歌に込めることの大切さ等のお話を盛り込み、より一層の深みを出すことを学んだ。また、8月の暑気払い時に披露する曲目、歌う順番も決め、来月からはそれに励むこととなり、雨も上がり気分爽快で帰路についた。(古賀)



気ままにウォーキング



No.86 橋本峰子

かかりつけの内科医から「お肉を食べるように、運動をするように」と受診の度に言われている。30 数年来栄養の専門職として勤めた私にとって、食事内容はおろそかにしていない。では運動の方はというと、自分の心がけ次第でいつでも出来るウォーキングを実行している。ここ数年は 2～30 分程度の近場と 1 時間程度の遠出のコースを、体調や気分ですべて歩いている。近場のコースは自宅周辺で、近くの神社で参拝したのち川沿いの道に出る。階段や坂道の起伏もあり、如何にも運動した感がある。たまに歩く遠出のコースは夜宮公園周辺で、景色を楽しみながらのウォーキング。この一帯は緑豊かで、初春から初夏にかけては梅から始まり、桜、躑躅、ヒツバタゴ(通称ナンジャモンジャ)、菖蒲と次々に咲く花を楽しむことが出来る。小規模の森も木漏れ日が心地よく、森をぬけると市の有形文化財・旧安川邸と国の重要文化財旧松本邸(西日本工業倶楽部)が隣接する路に出る。素晴らしい建築物や美しい庭園を眺めながら 1 時間近く歩く。心地良い疲れを感じながら家に帰る。さて、今年こそはかかりつけ医からはなまるをもらいたいと思っている。

4 月のお誕生日おめでとうございます (敬称略)



植田佐世子(29 日) 大川 力(4 日) 京谷 隆(4)♡一枝夫人

吉田秀子さん 「いけばな展」に出展



北九州いけばな協会による「いけばな展」が4月27日から3日間、小倉井筒屋パステルホールで開かれた。会場には北九州の14流派から寄せられた力作が所狭しと美を競っていたが、ひととき目を引いたのが草月流の「初夏」。伊庭翠雅師範のもとで学ぶ、当クラブ会員の吉田秀子さんら 10 人の共同作品だが、グロリオサの赤い色と、足立山界限で切ってきたモミジの緑、竹のオブジェがうまく調和し、文字通り清々しい初夏を感じさせる大作だった。(松本)

古賀靖子さん 人生を歌う ♪

“ラ・ニューイ”のコンサートが5月11日 14 時 30 分から北九州芸術劇場で開かれた。シャンソン歌手 TAKAKO さんに学ぶ古賀さんら11人が出演。愛、追憶、人生の歌を心を込めて語り、歌いあげ、満員の会場と不思議な一体感で結ばれていた。古賀さんは薄緑色のドレスで登場、「夜の通行人に捧ぐ」と「老夫婦」の2曲を語りつつ歌い、大きな拍手を浴びていた。

コンサート終了後は、詰めかけたプロビアンらに囲まれて談笑、記念写真におさまっていた。(松本)



ありがとう BOX メッセージ4月分(入会順、敬称略)

★全てに感謝(遠藤) ★今日は山下会員に受付を全部おまかせ、感謝(神田) ★体調不十分なれど、元気な空気で勇気(大川) ★少し遅かった桜の花も終り、今夏は暑い日が続きそうです。健康には気を付けましょう(古賀) ★ぼちぼちがんばろう！(吉田秀子) ★(松本) ★(植田) ★(眞鍋) ★桜散り葉桜もまた楽しい(吉田信雄) ★やっとな春(安高) ★元気に参加できました(橋本) ★やっとな暖かくなったと思ったら桜があつと云う間に散ってしまいました(柴村) ★ショートスピーチが終わってホッとしました(藤原) ★春らん漫、元気に外を楽しみたい(大石) ★(山下静江)

収支報告	令和 6 年3月末残高	146,387 円
	令和 6 年4月分	7,450 円
	令和 6 年4月末残高	153,837 円